

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471902120	事業の開始年月日	平成15年12月1日
		指定年月日	平成15年12月1日
法人名	NPO法人ふれんど		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	(〒238-0845) 神奈川県横須賀市大矢部3-30-6		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	7名
自己評価作成日		工外数	1工外
		評価結果 市町村受理日	平成25年3月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしくいきいきと過ごしていただいております。 職員同士励まし合い、刺激し合い切磋琢磨しています 自分の子供をいれたいと思えるホームを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月21日	評価機関 評価決定日	平成25年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は京浜急行線北久里浜駅からバスで約5分、バス停から徒歩10分ほどの静かな住宅地にある。近くには大矢部小学校や横浜横須賀道路佐原インターがある。建物は民家を改造した2階建てで、定員7名のグループホームとして9年前に開設した。現在2室を増設中である。同一敷地内には通所介護事業所を併設している。ホームの運営理念は「自分の子供をここに住ませたい」との思いを込めて作成した。職員は理念の志を共有し、日々の介護に反映させている。職員の在籍が長く定着が良い。調理師免許を持った介護食士が3名いる。献立は利用者の嗜好、食形態に合わせて作成されている。リビングの壁面には利用者が作ったちぎり絵、行事の写真、クリスマス飾りなどが掲示され季節感がある。 近くのお稲荷さんや公園への散歩が日課になっている。夏祭りや誕生会の行事の他、外出計画もあり、桜の季節には河津桜見物、秋はミカン狩り、クリスマスには近くの幼稚園のイルミネーション見物に出かけている。利用者と職員が終日レクリエーションを楽しみ、一つの屋根の下の大家族の雰囲気がある。</p> <p>【医療と健康管理・看取り体制・安全管理】 協力医療機関の訪問診療と看護師による健康管理が行われ、安心して生活を送ることが出来る。また、終末期は医療機関と連携した看取り支援体制がある。避難訓練を年に2回実施し、非常災害時の避難訓練や飲料水・食料の備蓄、防災備品の備えがある。</p> <p>【地域との交流】 地域の一員として町内会の文化祭などに参加している。毎年中学生が福祉体験学習に訪れ、お礼の手紙やカレンダーをもらっている。震災寄付バザーでは近隣住民から提供物があり、手伝ってもらった。地域のボランティアが事業所を訪れ、民謡、踊り、コーラス、手品などを披露してくれるので、利用者は楽しんでいる。ホーム長（法人代表）が市グループホーム連絡協議会の役員を務め、衣笠地区の研修企画を担当している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふれんど
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を良く見えるところに掲示している。シフト時、ミーティング時に確認し合い実践している。	開設時に作成した10カ条の事業所独自の理念が玄関に掲示されている。理念は「自分の子供をここに住ませたい」との思いを込めて作成した。職員には入職時に説明し、理念の志を共有し日々の介護に反映させている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。ゴミ置き場の掃除当番や、回覧板を回す時は、一緒に行っている。隣家の方から駐車場をお借りしている。近所の方がホームの裏のビワの木を、切ってくださいました。	町内会の文化祭などに参加し、ホーム長（法人代表）が認知症講座の講師をしている。中学生が福祉体験学習に訪れ、お礼の手紙やカレンダーをもらっている。震災寄付バザーでは近隣住民から提供物があり、手伝ってもらった。地域のボランティアが事業所を訪れ、民謡、踊り、コーラス、手品などを披露してくれるので利用者は楽しんでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長が地域の集まりの時、認知症についてお話させていただいている。ご近所の方の施設入所のご相談を受け、一覧表をお渡しして情報をお伝えした。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、情報公表への取組みをお伝えしている。ホームの行事にお招きして、入居者様と交流を持っていただき、具体的な意見を伺えるようにしている。	運営推進会議は2ヵ月に1回定期的に開催している。会議では運営（行事、研修、ボランティア、増床工事）や外部評価の結果を報告し、家族の意見を聞いている。参加者からは防災対策や地域交流の助言をもらい、運営に活かしている。	外部評価結果や目標達成計画を会議で報告し、意見をもらうこと、また、計画の進捗状況を会議でチェックしてもらい、サービス向上に共に取り組むことを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席いただいた時に、良くお話をさせていただいている。分からない事は、すぐお訊ねしている。講習などで訪問した時には、ホームの様子をお話している。	市指導監査課とは増床工事や料金設定の相談を行っている。ホーム長が市グループホーム連絡協議会役員を務め、衣笠地区の研修企画を1担当している。東日本大震災で被災した同業者を招き、市職員や同業者に体験講習を行い、災害時のネットワーク作りを開始している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関の施錠はしているが、希望があればいつでも開けている。普段出入りしているところは、常に空いている。	身体拘束を行わないことを契約書や理念に明記し、研修で共有している。玄関は施錠せず職員の見守りで対応している。万一外出されても地域の住民と顔なじみになっているので知らせてくれる。2階の階段前には安全柵、センサーを設置している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員は、ミーティング時に報告している。職員が疑問に思った事を出し合い話し合いをしている。職員のメンタルに関しては、良く声を掛け話を聞いている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の入居者に後見人が付いている。退去された入居者さんの後見の事で話し合った事があり、制度について学ぶ機会があった。後見人さんが来所時に、良く話を伺っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの事を知っていただく様に細かくお話している。契約後も、分からない事は何でも聞いて下さいとお願いしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された時は、面会に差し支えないようにしながら、お話を伺い、面会記録に記入している。運営推進会議の時家族の思いを伺い、ミーティング時職員に伝えている。	家族の来訪時に意見・要望を面会記録に書いてもらっている。利用者の要望は「連絡調整記録」「個人日誌」に記帳しミーティングで検討している。趣味の詩吟の継続を家族から要請され、利用者職員（元師匠）が練習し、敬老会で披露し生き甲斐を持ってもらった。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時だけではなく、個別にも話を聞いている。何でも書いて下さいと、アンケートを取っている。内容によりすぐに対応している。	職員の意見はミーティングで聞いている。また、ホーム長、管理者が個別に聞くほか、数人単位でも要望を聞いている。職員向けのアンケート結果を基に、利用者増に対応したシフトの変更、時給の見直しを行った。「夏季はリハビリパンツでは蒸れて暑いから、布パンツを使用したほうが良い」という職員の意見を採用し、実施した事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各講習を受講している。職員が、自ら研修参加を申し出て、配慮している。処遇改善により上げた時給を維持している。働きやすい環境作りに配慮して、実践している。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルにあった研修に参加させ、スキルアップを図っている。職員に対して、的確な声掛けをしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	リーダー研修に、管理者、主任が参加し、他事業所の管理者等との交流の機会を持った。GH交流研修も行っている。災害時対策研修を行い、それにより、GHネットワークの立ち上げにつながった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直後の不安を少なくするように、夜間などゆっくり話を伺っている。他の入居者さんと早く溶け込めるように、レクリエーションや会話を工夫している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や契約時に、良く話を聞いている。入居後の生活がイメージ出来るよう、レクの様子などを見ていただいている。ご希望は何でもお話し下さいとお伝えしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のお話やご様子を見て、必要なサービスを考えている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自らの役割とともに、家族として共に生活をしているという気持ちで介護している。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所を、入居者とともに喜んでいる。ご家族の思いを知り、涙する事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お知り合いが来所された時は、いつでもお越しくださいとお伝えしているが、再訪は少ない。地域の行事に、お連れしている。地域の行事の時、民生委員の方が声を掛けてくださる。	開設9年が経過し、利用者の高齢化（平均年齢85歳）に伴い馴染みの来訪者が少なくなり、家族が主体になっている。地域の行事や事業所の招待行事で馴染みの方に出会える機会を作っている。隣接デイサービスとは交流がある。電話や年賀状づくりを職員が支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、いい関係で過ごせるように家具の配置を工夫している。職員が、会話を繋げ、利用者同士がかかわり合いを持つようにしている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご家族様が訪ねてきてくださってご本人の様子を教えてください。送っていただいたパロはホームのマスコットになっている。職員が転居された施設に伺い、ご様子を伺った事もある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	つぶやきや、なにかを訴えている眼を見落とさないように努めている。本人がどうしたいのかを伺ったり、汲みとったりしながら、臨機応変に対応している。	利用開始時は独自のアセスメントシート（フェースシート）で意向を把握し、利用後は連絡ノートや個人日誌に記入し、職員間で共有している。理念でも記録と共有を求めている。誕生会「お祝いカード」の年齢が違くと判断された方でも、その思いを汲み取り年齢を消して居室に飾っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、サービス利用や生活歴などを伺うようにしている。入居後、知りえた事は、連絡ノートや個別ファイルを作り、情報を共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌等に職員が気付いた事を記入している。入居者さんのふだんのご様子を把握することで、変化に気づけるようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画担当者が中心となり、それぞれの方が必要としている介護が出来るよう、家族、職員、連携医、訪問看護師等と良く話し合っている。	介護計画作成には家族が参加している。計画作成担当者が職員の意見を聞き、医師や訪問看護師の意見を反映した介護計画を作成している。月に1回のカンファレンスでモニタリングし、半年に1回計画を見直している。状態の変化があれば随時見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれの記録方法を実践している。記録から読み取れるものを共有して、介護方法や計画に反映している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家庭の希望で、色々な対応をしている。庭に出て日向ぼっこをしながら、隣接のデイサービスの方々とも交流を楽しんでいただいている。敬老会や行事に出かけているときにも、ご一緒している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんが話相手や敬老会で踊りを見せてくれたり、レクリエーションを行ってくれたりしている。近くの小学校の行事に出かける時もある。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時の受診に対応できない家族には、職員が対応している。かかりつけ医に何でも聞けるような体制をとっている。医療連携契約を交わしている。	利用者全員が事業所の協力医利用機関を受診している。医療連携体制の指定を受け、内科は月に1回、精神科医のメンタルケアは2週に1回往診がある。看護師が毎週1回訪れ、健康管理が行われている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者が普段のご様子と違うと感じた時は、記録している。往診時、訪問看護師来所時等に細かくお伝えしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者にホームでの暮らしぶりをお伝えしている。ご家族様からご様子を伺ったり、面会に行ったりしている。病院関係者にホーム帰所時に注意などを伺っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前看取りがあったが、医師、家族、訪問看護師、職員が、強いチームワークで、その方の為に何が出来るかをよく話し合い、看取りする事ができた。	利用者・家族に重度化した場合の対応を「指針」により説明している。終末期を迎えた場合は「進め方」により再度確認し、「申し合わせ書」により医療機関と連携し看取り支援を行う。これまでに2名を看取った。職員には看取りマニュアルをもとに研修している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを壁に貼ってある。 ミーティング時によく話し合い、ロールプレイングをしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。 被災地のGHの体験談を伺う機会を持った事により、災害対策の意識が高くなった。市役所と避難所指定申請の相談をしている。	避難訓練を年に2回実施している。内1回は消防署の立ち会いがある。一時避難先としては近くの小学校がある。地域との協力体制はできていない。非常用食料、飲料水を3日分と防災備品の備えがある。常に浴室の浴槽に水を溜めている。隣接するデイサービスの2階の部屋を、災害時は地域の人に提供したいと考えている。	消火・避難訓練に地域住民の協力を得たり、町内会や自衛消防団などと防災協定を締結し、合同で防災訓練を行うなど、運営推進会議も活用し、地域との協力体制を築くことを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならず、といって、あまり角ばらないような声掛けを心がけるようミーティングで話し合っている。気付いた時には、職員同士注意している。	利用者との契約時に個人情報保護の説明を行い、同意書を得ている。職員の入職時には、個人情報の取り扱いについての誓約書を受け取っている。個人情報保護規定が玄関に掲示され、理念の中にも組み込まれている。待遇、着替え、排泄時にはプライバシーに留意している。個人情報に係る重要書類は、鍵のかかる書庫に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を伝えていただけるような声掛けをすべての職員を心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたいこと、みんなでしたいことなどを伺いながら、その日の動きを決めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を伺いながら、服を選んでいただいている。時折、マニキュアや口紅をつけていただくと、ホームが華やか。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、下ごしらえ等をお願いしている。下膳は危なくないように見守っている。お茶碗拭き、テーブル拭きをお願いしている。だんだん出来る方が少なくなっている。	調理師免許を持った介護食士が3名いる。献立は利用者の嗜好や食形態に合わせ、冷蔵庫にある食材からその場で作っている。利用者はすり鉢でイワシのつみれ作りなどを手伝っている。花見では外出している。庭のふきのとうやみょうがを食べることもある。職員は介助しながら同じ食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録している。水分は、食事、おやつ等に十分とっていただけるように声掛けをしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は每晚手入をしていただき、洗浄剤につけておく。毎朝職員が洗い、入れていただいている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員が各入居者の排泄パターンを把握できるように、記録している。本人のご様子や、時間を見計らい声掛けをしている。	排泄は自立以外の方には、排泄チェックシートにより声掛けし、トイレに誘導している。排泄について職員間で話し合い、「夏季は夜間であってもリハビリパンツは蒸れて暑いから布パンツを使った方がよい」という職員の意見を採用し、全員が布パンツに変更した。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便しやすい環境づくりを心掛けている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は決めている。入浴日も偏らないように決めてはあるが、本人の希望により対応している。夏は、入浴回数を増やしている。	夏は週3回、冬は週2回入浴している。希望があればいつでも入浴できる。季節に合わせてゆず湯、菖蒲湯を楽しんでいる。脱衣所には個別の入浴セットが置かれ、浴室にはヒーターと窓があり快適である。浴槽内にダルマ型のステップがあり、入りやすく腰掛けて半身浴もできる。入浴したがい方には体重測定に誘うなどの工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、居室で、休んでいる。声掛けをしてくれている。 入床はそれぞれのペースで入床している。気温、湿度に注意している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用などは、ミーティング時や連絡ノートで確認している。服薬は職員二人で確認し合っている。新しい薬が処方された時には、様子をよく観察し、記録している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだり、自室の掃除を職員と行ってもらっている。新聞でゴミ箱を作っていたら、季節に合わせたおやつをお出しして、楽しんでいただいている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	お天気の良い日は、散歩に出かけている。散歩コースは、入居者さんと、決めている。クリスマスのイルミネーションを見に出かけている。イベントや、近くの小学校の運動会、地域の餅つき大会に出かけている。	近くのお稲荷さんや公園などから散歩コースを選んでもらい、職員が付き添い週2回ほど出かけている。年間外出計画があり、桜の季節には河津桜見物、秋はミカン狩り、クリスマスには近くの幼稚園のイルミネーション見物に出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により買い物に出かけているが、現金は、ホームでお預かりしているので、直接利用者が使う事はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話は自由に使ってもらっている。年末のレクで、年賀状を作り、介護者に送っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を考慮して人感センサー付きの照明器具に取り換えた。乾湿計を各居室に設置し、こまめに調整を行っている。室内は季節を感じられるような飾り付けをしている。	民家を改造したホームであり、階段昇降機が設けられている。リビングにはテレビ、ソファ、生花、加湿器が置かれている。壁面には利用者が作ったちぎり絵、行事の写真、クリスマス飾りなどで季節感がある。利用者と職員が終日レクリエーションを楽しみ、一つ屋根の下の大家族の雰囲気がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居室でゆっくり過ごしていただけるようにしている。リビングのテーブルとは別のスペースにソファを置いている。2Fホールにもソファを置き使っていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身で作ったものや、イベント時のプレゼントを本人と一緒に飾り、楽しんでいただいている。飾り方は本人の好みを伺うようにしている。	居室には照明、エアコン、防災カーテン、押し入れまたはクローゼットが備え付けられている。利用者は馴染みのベッド、整理たんす、テレビ、人形、写真などを持ち込んでいる。居室担当職員と一緒に暮らしやすい配置をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の目線の案内プレートを作っている。自分で必要な物が取れるように置いてある。		

